（別紙様式４―Ｂ）山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

山梨県立甲府東高校
杉山　皓仁

私がこれまでドイツの生活で体験したことや学んだことについて報告していきたいと思います。

まず私の留学目的のうちの一つに戦争について学ぶというものがありました。これに関してはドイツは歴史を学ぶ上で最適な国だと再認識することができました。なぜなら冷戦を 10 代後半で体験している世代が私たちの親世代だということです。よって多くの方から若者の時に体験した冷戦の話を聞かせてもらい、またそれらは 18 歳である私自身にとってすごく年齢的な意味合いで想像しやすく、より身近な体験となっていると思います。

また私がお世話になっていたホストファミリーは二組とも東ドイツ出身のためそれぞれ今の日本で生活している限りまず触れることのないような出来事ばかりを経験しており、日々私自身が過ごしてきたこれまでの人生がどれほど楽だったのかと実感しました。

加えて私が、ドイツが歴史を学ぶにあたって最適な国だというのにはもう一つ理由があります。それはドイツだけではなく隣国の歴史もより身近に学ぶことができるということです。例えばドイツにきてからジョージアという国からの友達ができました。その方とよく歴史に関しての話をする中でジョージアという国もロシアという国と 2008 年まで色々あった国で国の中で起こった事件などドイツとは違う歴史についても触れる機会がありました。このようにドイツでは一国だけではなく、他国の歴史にも触れる機会が多くあり世界の戦争に対する意見を耳にしやすいのかと思います。

次に二つ目の留学目的として自身の将来像を明確化するというものがありました。現在の日本では英語を流暢に話せる人が話せない人よりは評価されるというのが、ごく普通の状況だと思います。しかしドイツにきてから改めて気づいたことは英語は話せて当たり前、その次にどのようなスキルを持っているかということです。つまり英語を話せるということは、これからの時代では仕事ではなく、単なるツールにしかすぎなくなることを私はドイツで強く感じました。またそのスキルというのは英語に続く第 3 言語でもなり得ると思います。よって私は将来グローバル化により国と国との距離感が短くなってくる現代で、生き残るにあたって複数の言語を駆使し、かつ他が持たないようなスキルを身につけていこうと考えています。

次に私が個人的な思いで日々経験していることについて紹介したいと思います。それはつまりサッカーについてです。私は、幼少期の頃からサッカーをしており海外サッカーにもとても憧れを持っていました。留学中、ドイツのサッカーリーグ「ブンデスリーガ」において圧倒的な強さを誇るバイエルンミュンヘンというチームの試合を見に行く機会がありました。国内外から絶大な人気を集めるチームの集客力は凄まじく、毎年ホ

ームゲームが最低 17 試合あるのですが全試合で満席（75,000 人）というスタジアムに足を運んだため終始周りの雰囲気と世界のトッププレイヤーたちのパフォーマンスに圧倒されるばかりでした。
また幸いにもホストファザーがサッカークラブのコーチであるためドイツでも普通のサッカークラブに通っており、実際にサッカーが国技といっても過言ではない国のプレイヤーたちと共に練習や試合をこなす中でも日本との環境や熱量、質など様々な違いを体験することができました。

最後にこれからさらに学びたいこと、またそれらの経験をどのように 生かすかについてです。今後、主には活動を通して私がドイツで経験したことを広めていきたいと思ってます。帰国報告会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまいましたが、この報告書を通してはもちろん、私が代表を務めていた学生団体の「YGP(Yamanashi Global Pioneers)」という団体のイベントなどを通じて自分だけの留学にはせず、より多くの人にも私がドイツで経験したこと、また留学の重要性、海外の魅力などについて伝えていけたらと思います。さらにはインターネットが普及している現代では、留学中、私は日々のドイツ生活での出来事を SNS を通じて発信していたのですが、その活動をこれかからも続けることでさらに多くの人にも海外や留学について知ってもらえる機会を増やしていきたいと思います。

私は 2020 年の 3 月に新型コロナウイルスの影響により早期帰国をせざるをえない状況になりました。本来であれば 4 月にポーランドにアウシュビッツに行って歴史についてさらに学びを深め、さらに 6 月にはベルリンに行きベルリンの壁の視察やバイエルン州内の強制収容所跡などにも足を運びできるだけ多くの歴史と向き合いその背景などを理解してこようと考えていました。ドイツでやり残したことは計り知れなく、やるせない思いに苛まれましたがこれも自分のこれからの何かしらのステップだと捉えて前進していこうと思います。

（別紙様式４―Ｂ）山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書